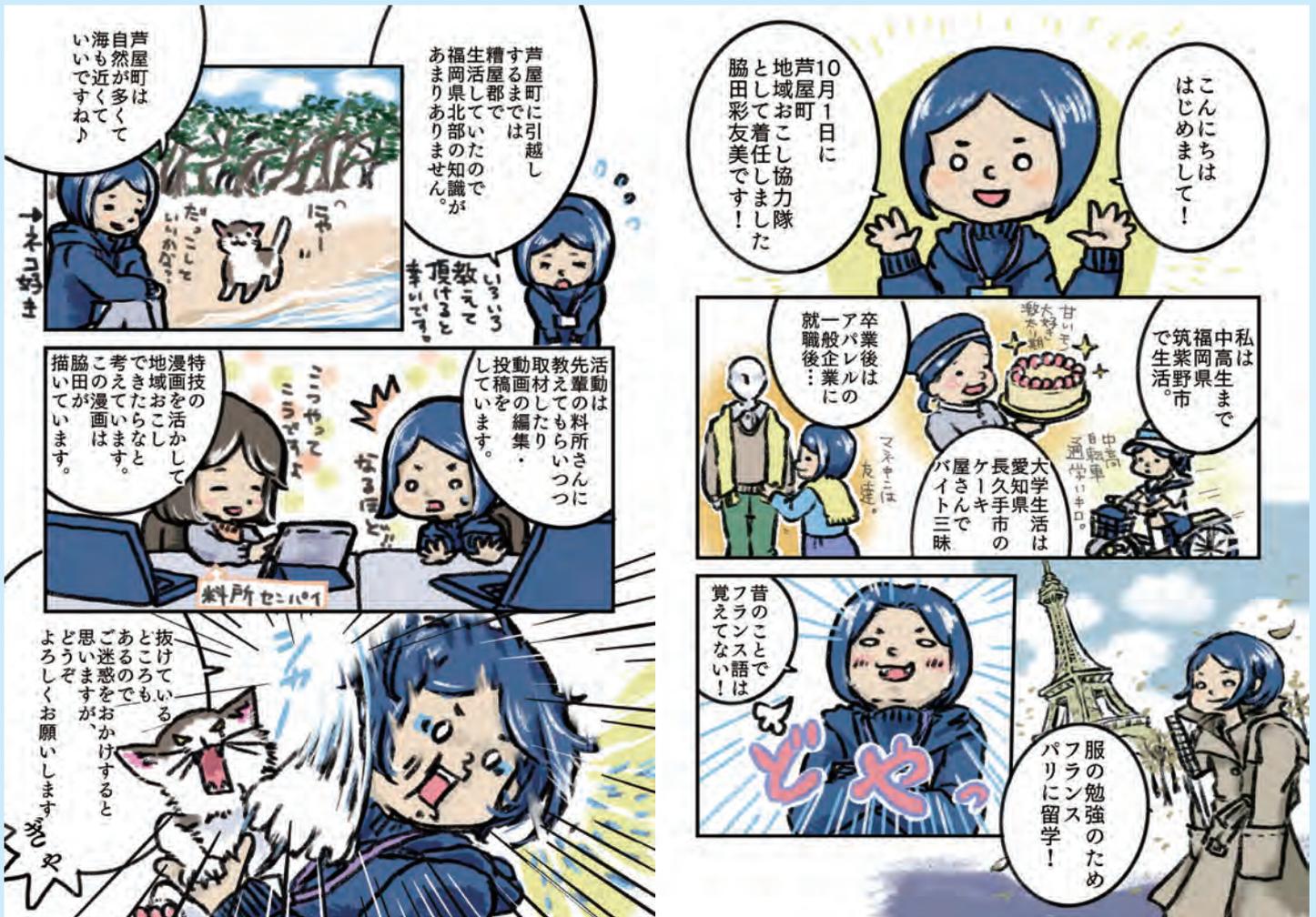


地域おこし協力隊とは？

人口減少や高齢化などが進む地方で、地域外の人を受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その地域への定住・定着を図ることで、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。

▷問い合わせ 地方創生推進係 (☎223-3571)

脇田彩友美



地域おこし協力隊の脇田です。私は漫画やイラストの創作をしています。芦屋町の魅力を漫画で発信していきたいと思っています。今回は私が描いた漫画で自己紹介をしました。



△高校生から一緒に過ごしていた猫のさくらちゃんです

福岡県中部での生活が長く福岡県北部の地理がわからず、芦屋町に来てから、よく道に迷っています。遠賀川のような大きな川もあまり見たことがなかったので付近をぶらぶらと散歩しています。また、父の故郷が天草市なので芦屋の海を見ると「幼いころに父と一緒にアジ釣りに行ったな」と思い出しています。生活が落ち着いたら釣り竿を持って鯛やヒラメを釣りたいです。



■日々の活動は

Instagramで発信していますので、フォローして活動を応援してもらえると嬉しいです！



# 芦屋歴史紀行

その三百三十二

## ミシンと洋服 温かさと思いつく③

### ●戦後〜焼け跡からの出発〜



モンペと防災頭巾

戦争が終わると、人々は着物など限られた物資を材料として、更生服やモンペを家庭裁縫さいほうによって仕立て直し、身に着けました。戦後の混乱期は物資が不足し、軍服や国民服が文字通りの普段着となりました。芦屋では、陸軍芦屋基地の備蓄品であった未使用の軍服や毛布などが放出・配布され、物資不足のなか町民に喜ばれました。



昭和20年ごろの芦屋の子どもの服装

戦後の衣料不足から、戦時中に施行された「衣料配給」が昭和22（1947）年に復活し、25（1950）年に廃止されるまで続きました。また、アメリカの中古衣料が東

京御徒町「アメ横」など各地の闇市やみいちに放出され、買い求める人で大混雑しました。昭和26（1951）年の新聞は、「溢れる放出中古品」の見出しで「アメリカからドットと中古洋服の放出だ」と報じています。

このような衣料事情のもとで、戦の翌年、昭和21（1946）年に洋裁専門学校、文化服装学院やドレスメーカー女学院が多数の入学を集めて再開されました。卒業資格要件なく入学でき、かつ短期間の修業年限で実用的な技術が身につくとされる専門学校は、人気となりました。昭和27（1952）年の新聞は、「現在の全国の洋裁学校の数は名の知れた大きなものが300前後あり、認可、非認可の学校もひっくるめると、5800余校という膨大な数にのぼり、その卒業生は年間52万人にもなるというから、こ



洋裁学校の授業風景

このように衣料事情のもとで、戦の翌年、昭和21（1946）年に洋裁専門学校、文化服装学院やドレスメーカー女学院が多数の入学を集めて再開されました。卒業資格要件なく入学でき、かつ短期間の修業年限で実用的な技術が身につくとされる専門学校は、人気となりました。昭和27（1952）年の新聞は、「現在の全国の洋裁学校の数は名の知れた大きなものが300前後あり、認可、非認可の学校もひっくるめると、5800余校という膨大な数にのぼり、その卒業生は年間52万人にもなるというから、こ

ころの若い女性は、たいてい洋裁の学校の門をくぐっていると、言っても過言でないといえる」と報じています。

服飾史の専門家は、次のように戦後の洋装化をまとめています。日本人の女性の間で「国民的な規模で洋裁学習時代」が起こったことには、「はっきりとした画期（時代の区切り）と理由があった」。つまり、「キモノから洋服への衣服革命がおこった最大の理由」は「戦争中、ズボンやモンペといった活動的な衣服を体験したこと」であり、「戦争は終わったが、



衣服の製図例

着るものがない。生地もない。このため、使えるものは何でも使つて服にした。これが更生服である。ここから洋裁の時代が始まった」と捉え、「厳しい生活の現実のなかで、ひそかに、着実に、衣服革命が進行していたのである」と。

（芦屋歴史の里）

## 編集後記

▼新年あけましておめでとうございませう。今年も広報あしやをよろしく願います。表紙の着物の二人、すてきですよ。写真は、被写体はもちろんです。背景の美しさも大事で、その点、釜の里は絶好のロケーションです。着物を着て和風庭園で写真を撮る機会はめったにありません。二十歳の皆さん、1月7日は芦屋釜の里に行つて記念写真はいかがですか。（那木）▼カメラを持って町を歩いていると、「野中さん？いつも広報読んてるよ〜」とうれしい声をかけてもらいました。町の皆さんと関わる機会が多く、広報紙を作るときにいろいろな人の顔が浮かぶようになりました。広報担当の仕事の楽しいところのひとつだと感じています。今年が30代最初の年。20代までにできなかったことに一つ一つチャレンジしていく年にならぬと思えます。（野中）▼28ページには地域おこし協力隊、脇田さんの紹介を掲載しています。とても絵がうまくてびっくりしています。私は絵心がないので教えてもらおうと思いません。今後は地域おこし協力隊のInstagramでも漫画を投稿していくのでぜひフォローしてください！（手塚）

